

眼科

1. スタッフ（平成21年4月1日現在）

科 長（教 授）	茨木 信博
副 科 長（准 教 授）	小幡 博人
外来医長（講 師）	牧野 伸二
病棟医長（病院助教）	竹澤美貴子
医 員（講 師）	国松 志保
（助 教）	杉 紀人
	堀 秀行
	青木 真祐
（病院助教）	青木 由紀
	石崎こずえ
シニアレジデント	4名
副 手	杉 恵子
	加藤 健
非常勤講師	山本 裕子
	大久保 彰
	川島 秀俊
	高橋 雄二
	原 岳
非常勤医員	水流 忠彦
糖尿病センター	
教 授	佐藤 幸裕

2. 診療科の特徴

当院では、大学病院という3次医療機関である関係上、地域の医療施設と密接に連携体制をとり、急性期の治療を中心に診療を行っている。特に、専門外来（角膜、緑内障、ぶどう膜炎、網膜・硝子体、黄斑、眼循環、ロービジョン、斜視・弱視）を充実すべくスタッフ一同、常に最新の高度医療の導入に努力している。

診断面では、通常の眼科診療に必要な機器は完備しており、さらに光学的干渉断層計（OCT）、ICG眼底撮影（HRAII）、波面収差解析装置、前眼部解析装置、等々最新の診断機器を備えている。

治療面では、中央手術室に眼科専用手術室を2室設け、それぞれに最新の超音波水晶体乳化吸引術装置（インフィニティ）、硝子体手術装置（アキュラス）を設置し対応している。また、平成12年度からはエキシマレーザー角膜手術装置を導入し、角膜屈折矯正手術やレーザー角膜切除手術を、平成16年度から光線力学的療法を加齢黄斑変性に対し積極的に行っている。

平成19年度から多焦点眼内レンズの取り扱いを始め、白内障患者様Quality of Visionのさらなる向上に努めている。また、眼内の新生血管に対するアバスタチン療法など常に最新の治療法を検討している。

平成18年度に病院全体として電子カルテに移行したことより、眼科サブシステムを導入した。完全ペーパーレスを目指し、また病院システムとのシームレスな環境を構築している。画像データのみならず各種病態説明や手術スケジュール管理等、医療者側、患者側共に抜けや間違いのない便利なシステムとなっている。

認定施設

日本眼科学会専門医制度認定施設

日本眼科学会専門医制度眼科研修プログラム施行施設

専門医

日本眼科学会専門医認定医

茨木 信博、佐藤 幸裕、小幡 博人、牧野 伸二、国松 志保、堀 秀行、杉 紀人、青木 真祐、竹澤美貴子、青木 由紀、石崎こずえ、杉 恵子、加藤 健、水流 忠彦、大久保 彰、川島 秀俊、高橋 雄二、原 岳

眼科PDT認定医

茨木 信博、牧野 伸二、堀 秀行、杉 紀人、竹澤美貴子

3. 診療実績

1) 新来患者数・再来患者数・紹介率

新来患者数	2,230人
再来患者数	29,808人
紹介率	85.6%

2) 入院患者数（病名別）

病 名	人 数
白内障	806
網膜剥離	118
斜視	31
角膜潰瘍	10
緑内障	39
硝子体出血	33
糖尿病網膜症	137
黄斑円孔	39
網膜静脈分枝閉塞症	14
網膜中心静脈閉塞症	3
網膜中心動脈閉塞症	7
原田病	5
視神経炎	6
前房出血	1
眼球破裂	3
その他	205
合 計	1,457

3) 手術症例病名別件数

病 名	人 数
白内障手術	825
緑内障手術	37
網膜剥離手術	121
硝子体手術	267
斜視手術	24
角膜手術	12
その他	21
小 計	1,307
外来手術（レーザー治療含）	1,393
合 計	2,700

4) 化学療法症例・数

該当なし

5) 放射線療法症例・数

該当なし

6) その他の治療症例・数

該当なし

7) クリニカルインディケーター

(1) 悪性腫瘍の疾患別・臨床進行期別治療成績

該当なし

(2) 死亡症例・死因・剖検数・剖検率

該当なし

8) 主な処置・検査

蛍光眼底造影、超音波断層、光学干渉断層検査 (OCT)、スキャニングレーザーオプタルモスコープ、インドシアニンググリーン蛍光眼底撮影など

9) カンファランス症例

クリニカルカンファランス

毎週月曜日午後6時より

スライドカンファランス

毎週火曜日午後6時より

4. 事業計画・来年の目標等

大学病院の眼科の使命として、教育・研究・臨床の3つを行うことが要求されている。

教育は、学生教育のみならず、専門医を育てる必要がある。最新の医療技術を安全確実に提供できる眼科専門医を養成する。

医学や医療の発展のために、単に日常診療のみに流されることのないよう、常に新知見を得る努力を怠らないように心がける。

導入されている最新の医療機器を有効利用し、重症患者に対する質の高い医療を提供する。